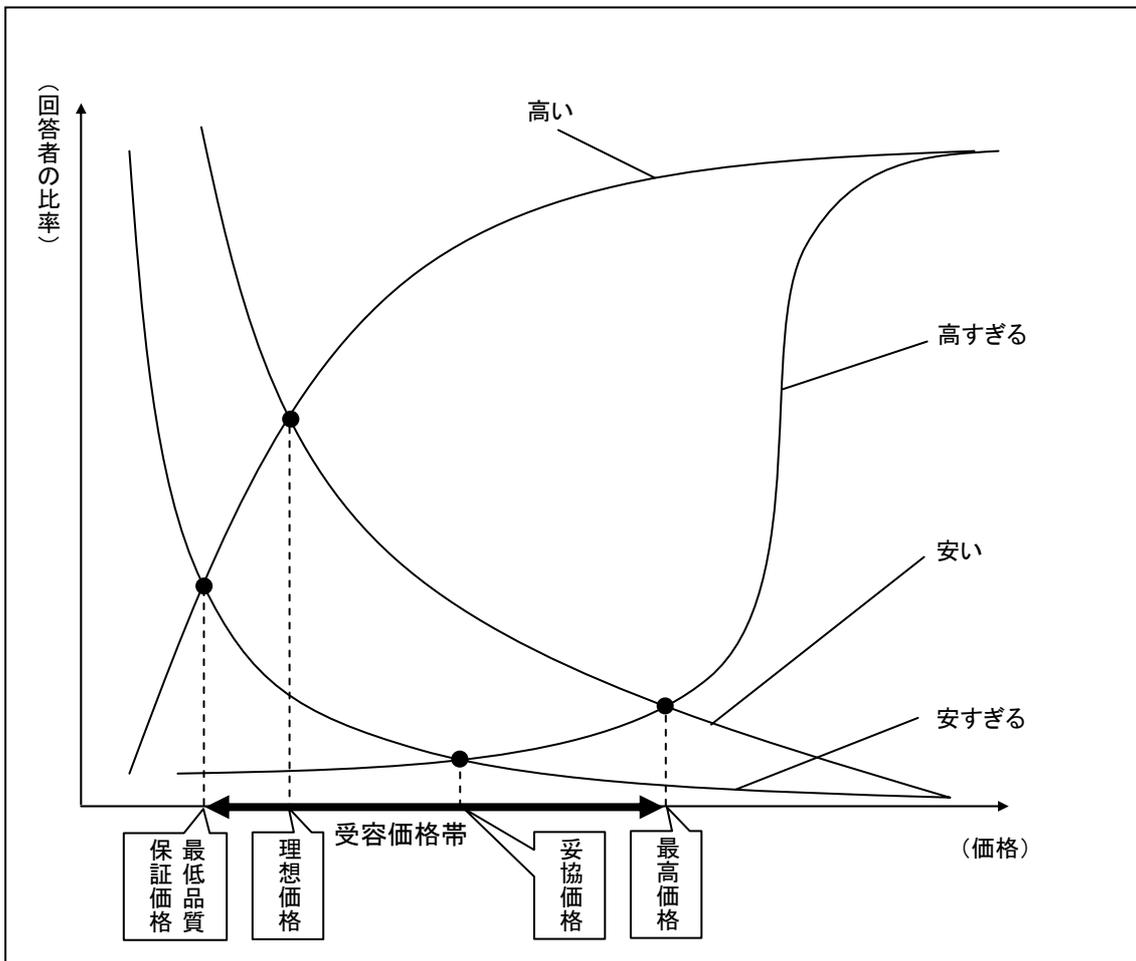


第Ⅶ章 食肉の価格感度測定

1 価格感度測定について

価格感度測定とは、PSM (Price Sensitivity Meter [Measurement]) とも呼ばれる、既存データのない場合の受容価格範囲・最適価格を知る手法として知られているが、例えば牛乳のように日々価格が変動するような商品の受容価格範囲を知る上でも用いられている。国産和牛、和牛以外の国産牛、国産豚ばら肉、鶏もも肉の4種類について、受容価格範囲を調べた。

■図表VII-1 価格感度測定による受容価格帯推定方法



1 価格感度測定について

価格感度測定を行うに当たり、上記4種類の食肉について、以下の4つの質問をした。

(質問1) あまりにも安くて、品質に不安を感じ始める100g当たりの値段

(質問2) 品質に不安はないが、安いと感じ始める100g当たりの値段

(質問3) 品質的に買う価値はあるが、高いと感じ始める100g当たりの値段

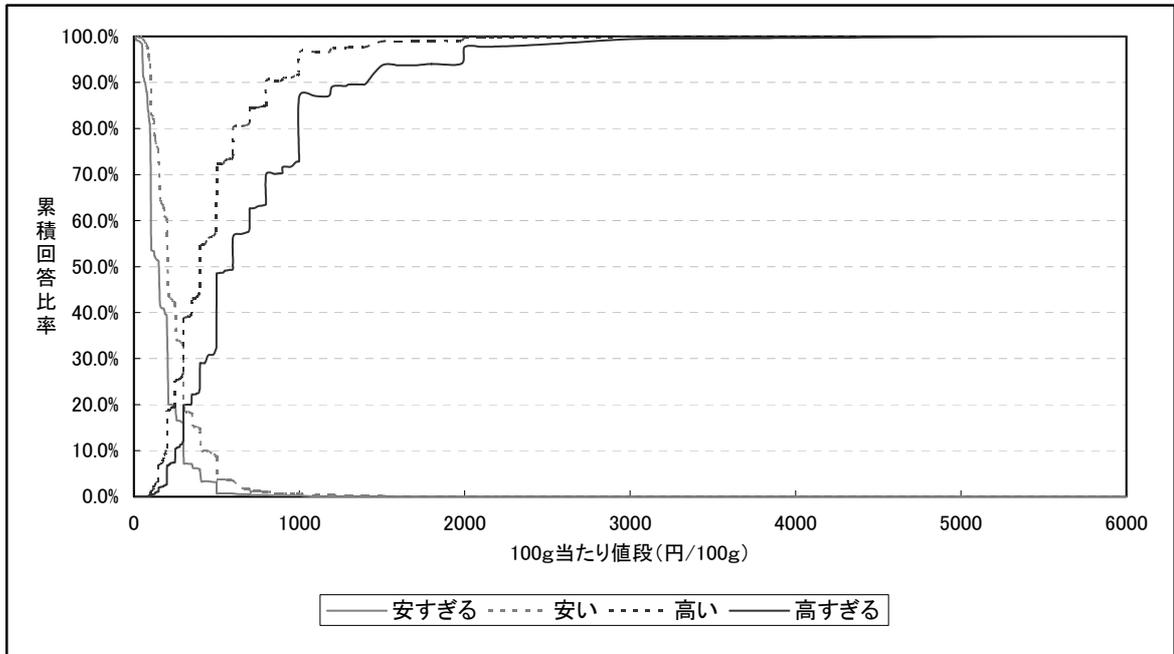
(質問4) いくら品質が良くても、高すぎて買えないと感じ始める100g当たりの値段また、より直接的に以下の質問も追加した。

(質問5) ちょうど良いと思う100g当たりの値段

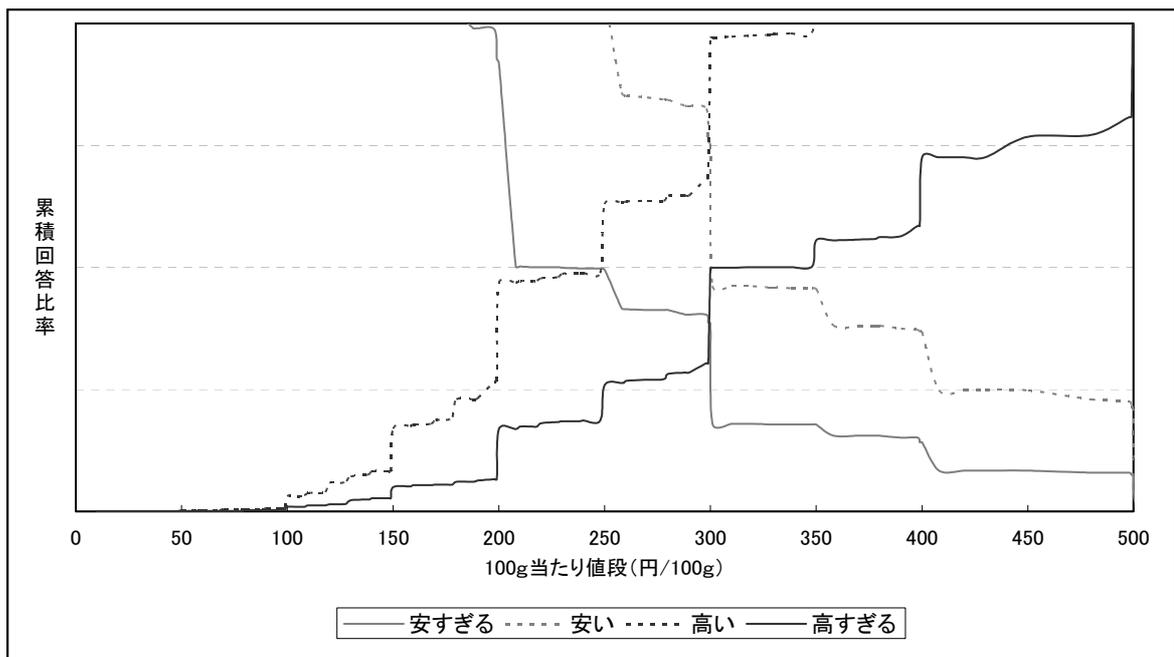
上記の質問について、どの価格で何%の回答者がそのように思うのか、累積の比率をグラフ化すると「図表VII-1」のようになる。この図で、PMC (Point of Marginal Cheapness) は、「安すぎて品質が不安」と感じる人と「高いと感じ始める」人とが同数になるポイントで、安さの限界点とされている。一方、PME (Point of Marginal Expensiveness) は、「高すぎて買わない」と感じる人と「安いと感じ始める」人とが同数になるポイントで、高さの限界点とされている。このPMCとPMEとの間の領域が、受容価格帯として算出される。また、質問5の最多回答数価格や平均価格も受容価格帯の参考とする。

2 国産和牛の価格感度測定

■ 図表VII-2 国産和牛の価格感度測定(全体像)

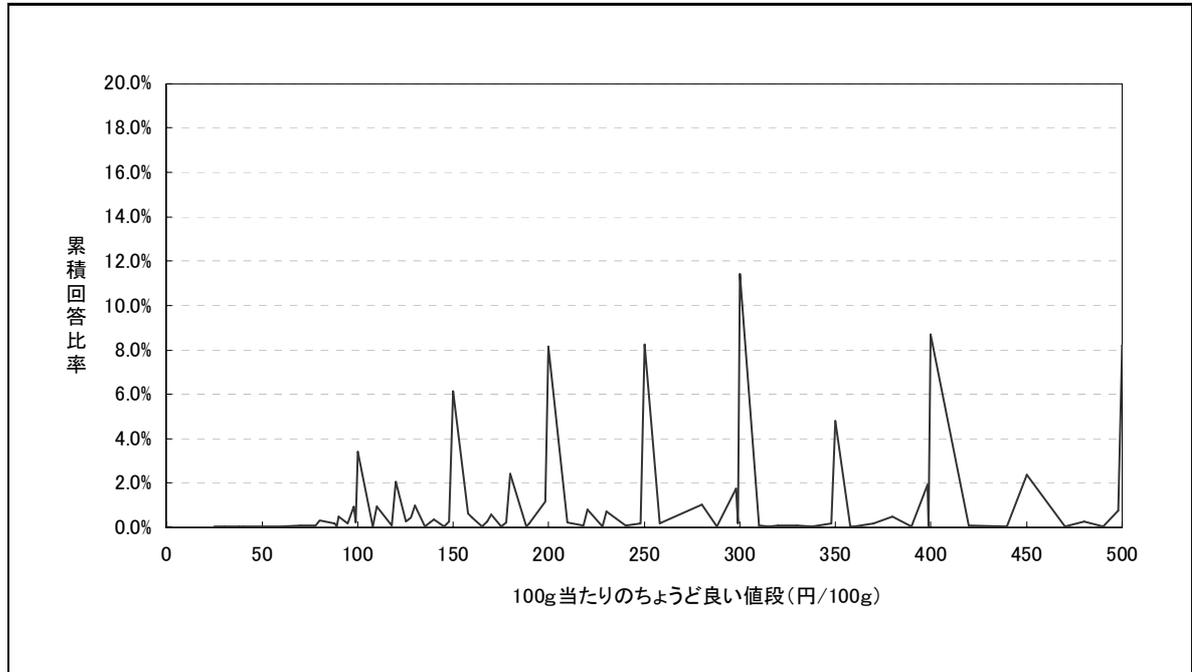


■ 図表VII-3 国産和牛の価格感度測定(受容価格帯近辺)



2 国産和牛の価格感度測定

■ 図表VII-4 国産和牛のちょうど良い値段回答比率



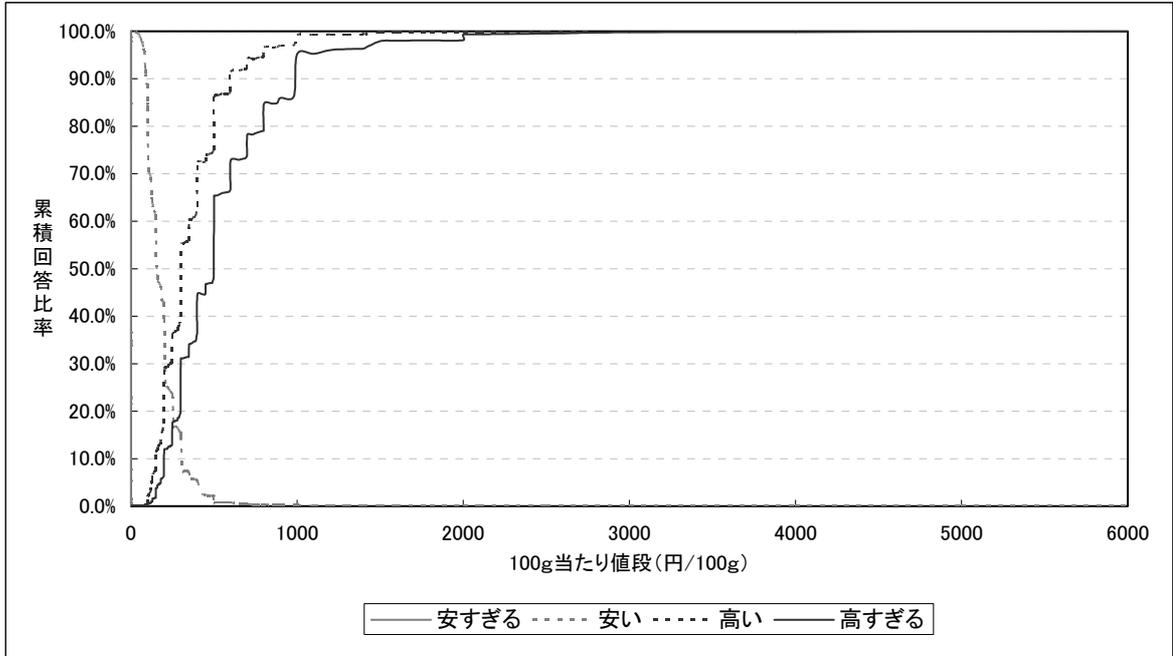
国産和牛の価格感度測定について、全体像を「図表VII-2」に、受容価格帯近辺のグラフを「図表VII-3」に示す。

このグラフから受容価格帯を算出すると、安さの限界点（PMC）が 248.1 円／100g、高さの限界点（PME）が 300.9 円／100g となり、消費者は、国産和牛 100g 当たり 248.1 円～300.9 円（価格幅 52.8 円）を適正な価格の範囲として認識しているということがわかった。

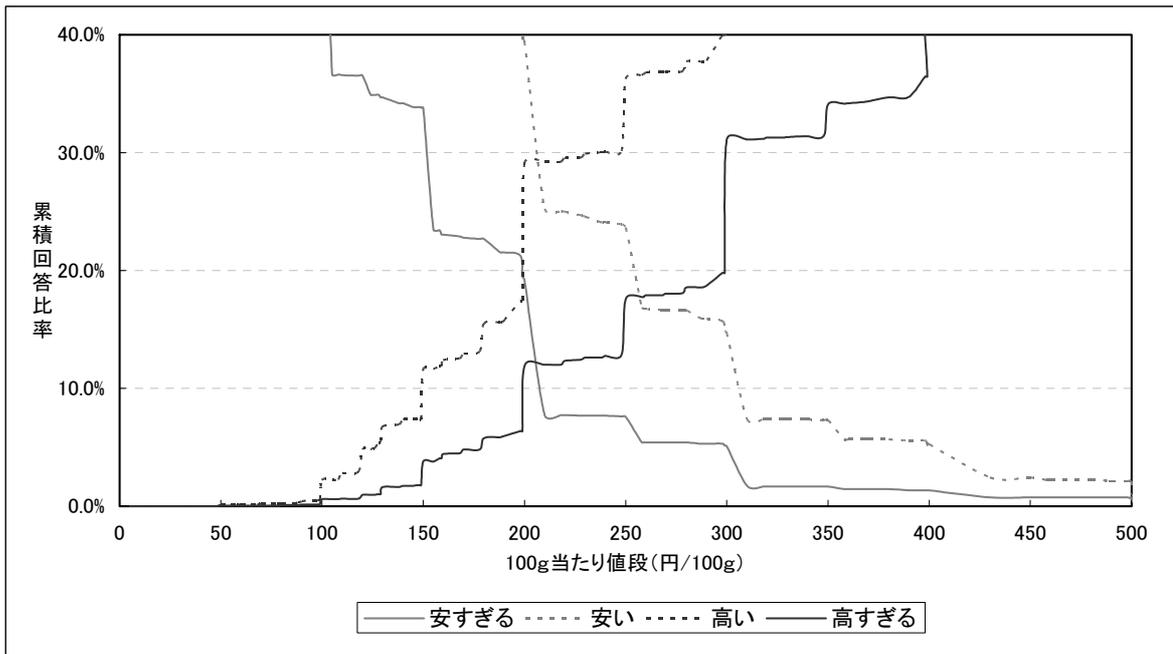
また、ちょうど良い 100g 当たりの値段としては、平均で 348.4 円。最も回答が多かった値段が 300 円の 212 件（11.4%）で、受容価格帯の範囲内となっている。

3 和牛以外の国産牛

■ 図表VII-5 和牛以外の国産牛の価格感度測定(全体像)

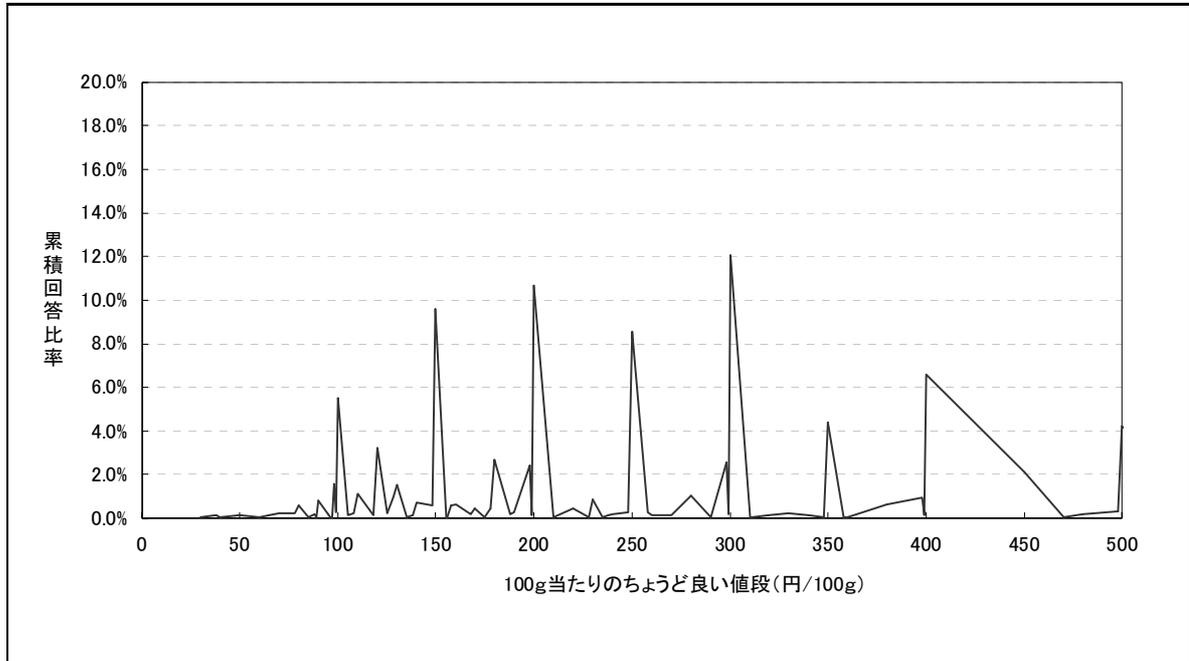


■ 図表VII-6 和牛以外の国産牛の価格感度測定(受容価格帯近辺)



3 和牛以外の国産牛

■ 図表VII-7 和牛以外の国産牛のちょうど良い値段回答比率



和牛以外の国産牛の価格感度測定について、全体像を「図表VII-5」に、受容価格帯近辺のグラフを「図表VII-6」に示す。

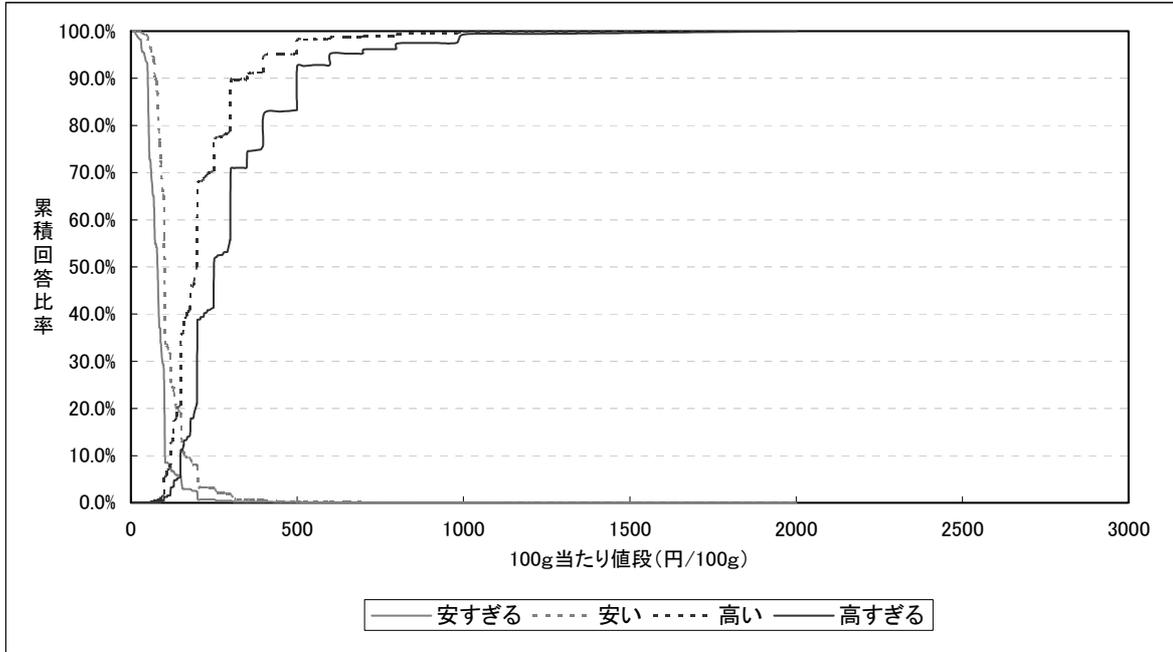
このグラフから受容価格帯を算出すると、安さの限界点（PMC）が 199.2 円／100g、高さの限界点（PME）が 257.0 円／100g となり、消費者は、和牛以外の国産牛 100g 当たり 199.2 円～257.0 円（価格幅 57.8 円）を適正な価格の範囲として認識しているということがわかった。

国産和牛と比較すると、和牛以外の国産牛は安い価格帯に移行しており、価格幅が狭まっている。価格幅の狭さは、品質の違いによる価格の変化をあまり認めないということを示しているため、和牛以外の国産牛は、質よりも安さが重視されているものと推測される。

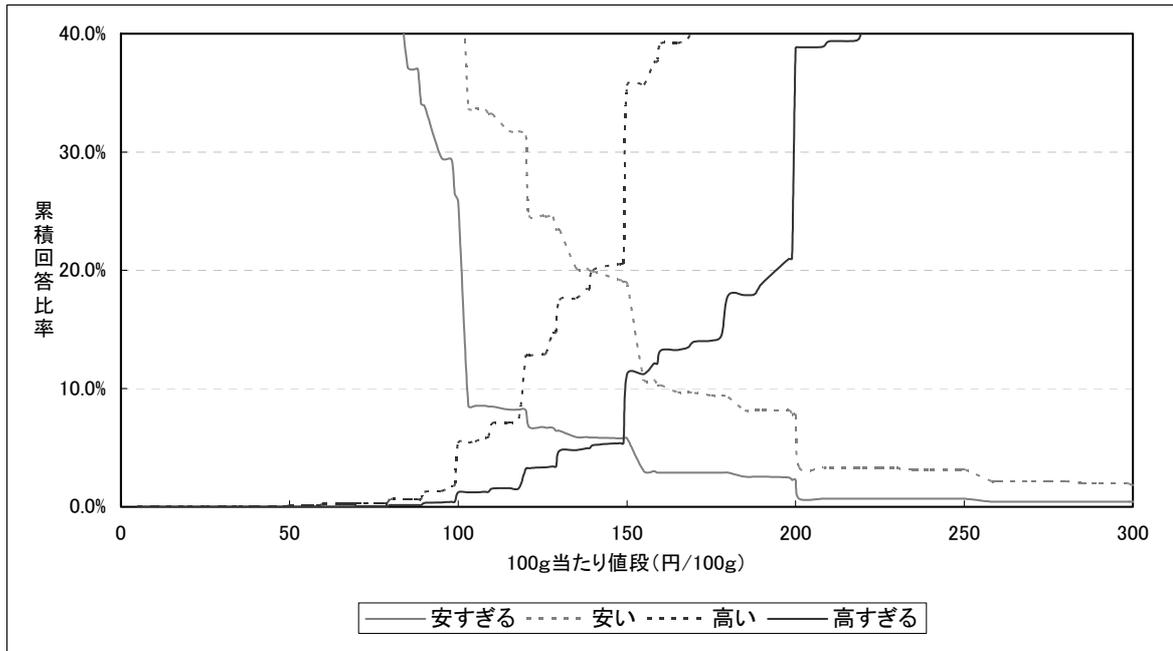
また、ちょうど良い 100g 当たりの値段としては、平均で 268.8 円。最も回答が多かった値段が 300 円の 223 件（12.1%）で、受容価格帯の範囲外となっている。

4 国産豚ばら肉の価格感度測定

■ 図表VII-8 国産豚ばら肉の価格感度測定(全体像)

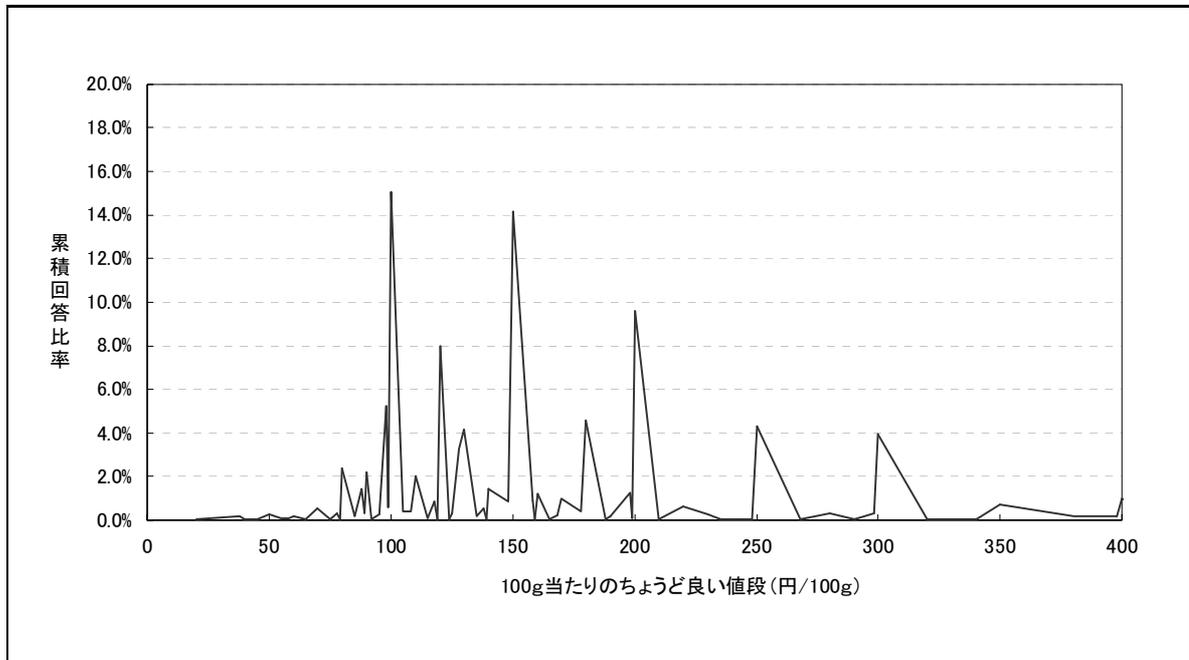


■ 図表VII-9 国産豚ばら肉の価格感度測定(受容価格帯近辺)



4 国産豚ばら肉の価格感度測定

■ 図表Ⅶ-10 国産豚ばら肉のちょうど良い値段回答比率



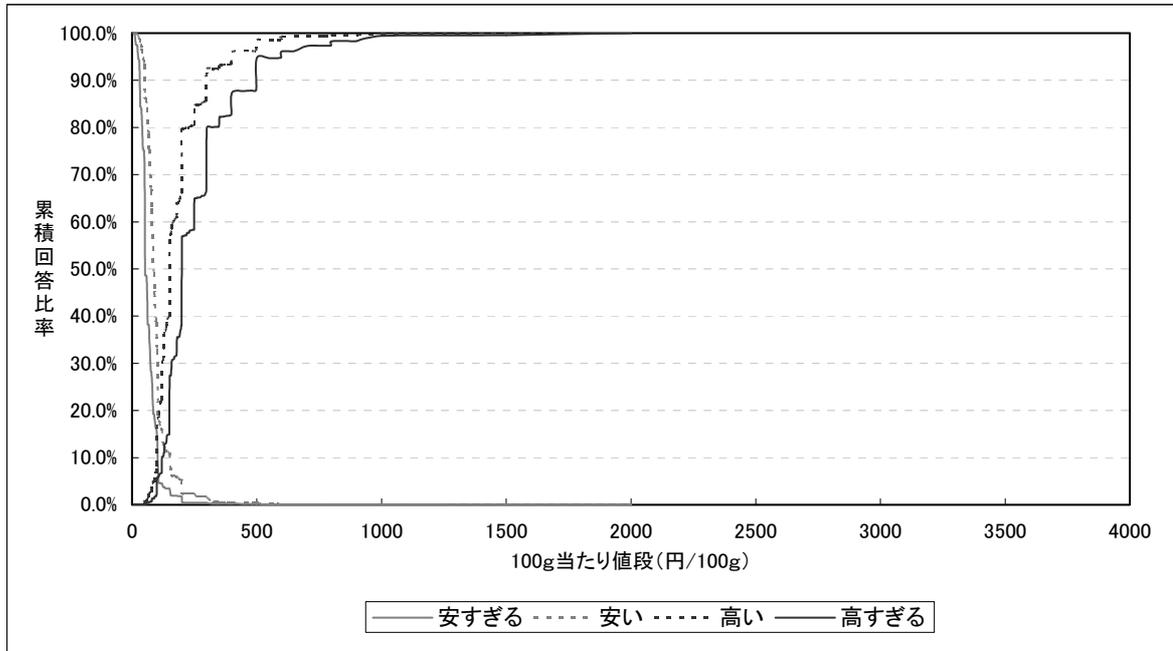
国産豚ばら肉の価格感度測定について、全体像を「図表Ⅶ-8」に、受容価格帯近辺のグラフを「図表Ⅶ-9」に示す。

このグラフから受容価格帯を算出すると、安さの限界点 (PMC) が 118.3 円/100g、高さの限界点 (PME) が 154.7 円/100g となり、消費者は、国産豚ばら肉 100g 当たり 118.3 円～154.7 円 (価格幅 36.4 円) を適正な価格の範囲として認識しているということがわかった。

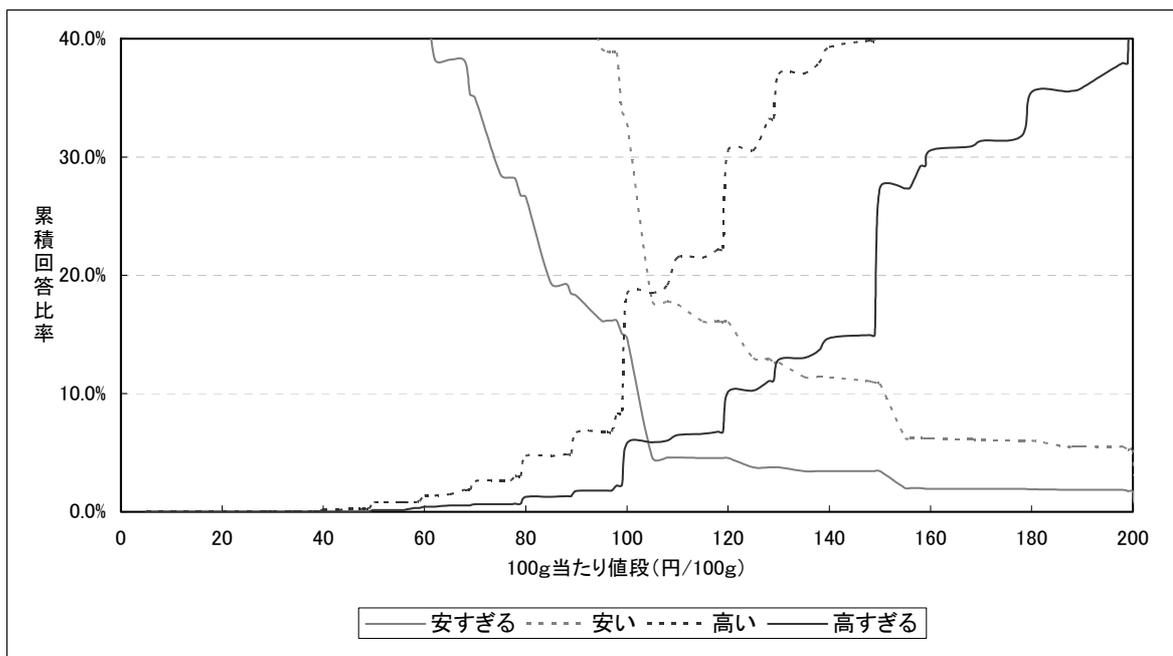
また、ちょうど良い 100g 当たりの値段としては、平均で 159.9 円、最も回答が多かった値段が 100 円の 286 件 (15.1%) で、受容価格帯の範囲外となった。なお、2 番目に回答が多かった値段が 150 円の 269 件 (14.2%) と、一番多かった値段との差が少なかった。消費者にとっての値ごろ価格が、100 円近辺と 150 円近辺の二極化構造になっていることが考えられる。

5 鶏もも肉の価格感度測定

■ 図表VII-11 鶏もも肉の価格感度測定(全体像)

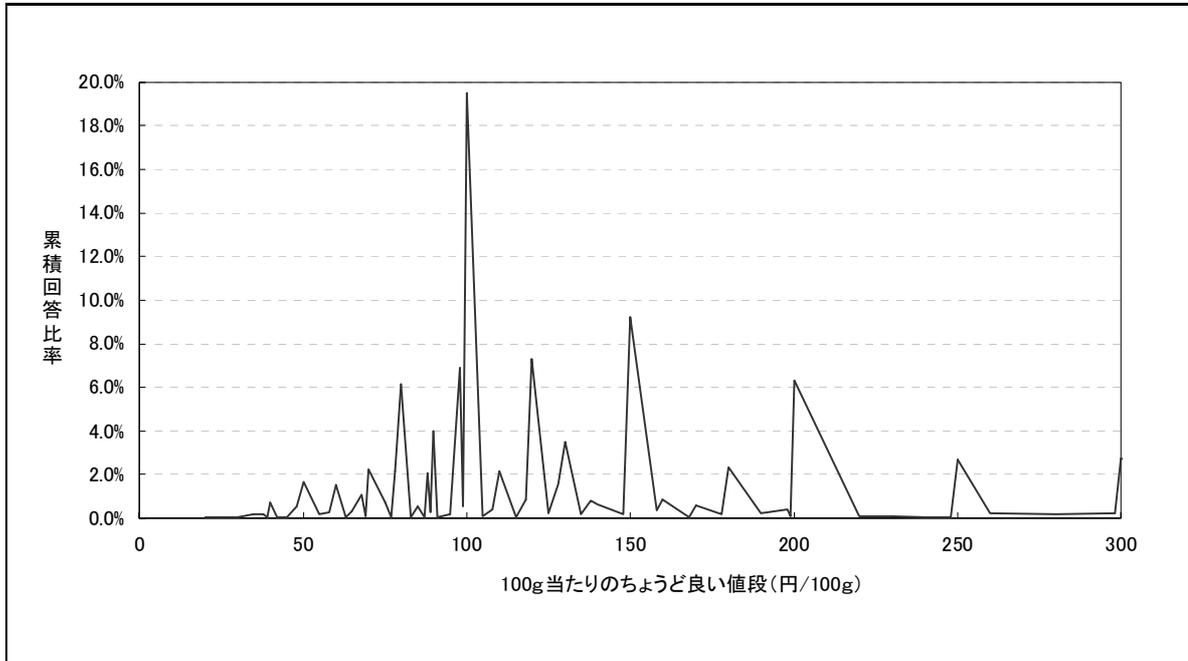


■ 図表VII-12 鶏もも肉の価格感度測定(受容価格帯近辺)



5 鶏もも肉の価格感度測定

■ 図表VII-13 鶏もも肉のちょうど良い値段回答比率



鶏もも肉の価格感度測定について、全体像を「図表VII-11」に、受容価格帯近辺のグラフを「図表VII-12」に示す。

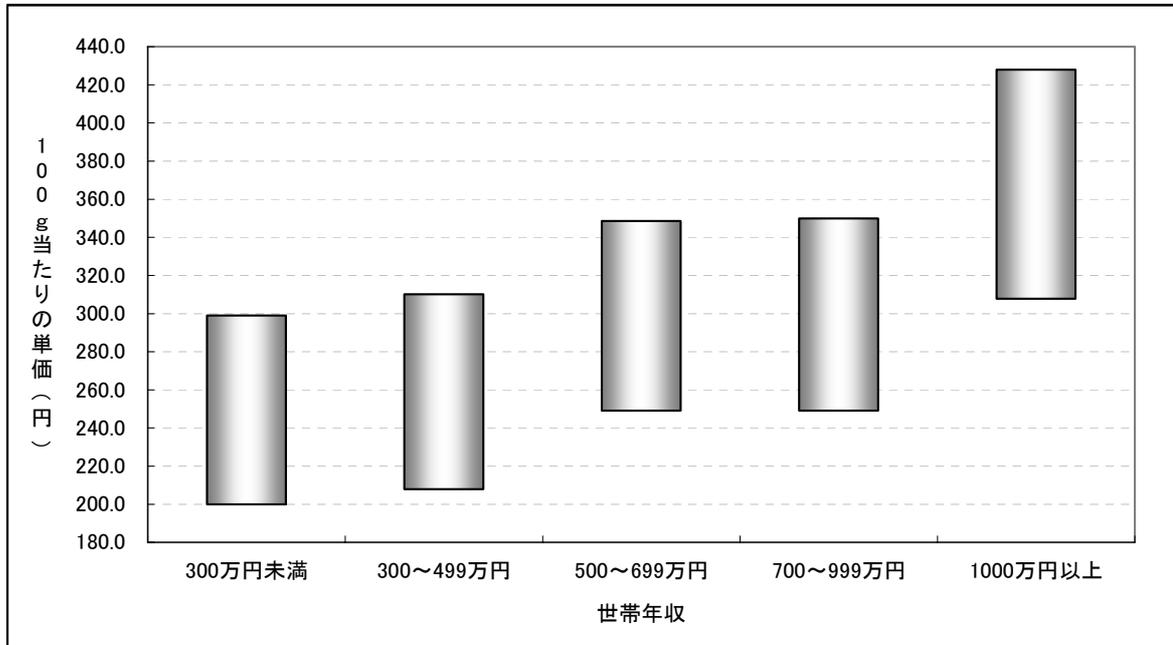
このグラフから受容価格帯を算出すると、安さの限界点(PMC)が99.6円/100g、高さの限界点(PME)が129.9円/100gとなり、消費者は、鶏もも肉100g当たり99.6円～129.9円(価格幅30.3円)を適正な価格の範囲として認識しているということがわかった。

また、ちょうど良い100g当たりの値段としては、平均で133.2円。最も回答が多かった値段が100円の369件(19.5%)で、平均は受容価格帯の範囲外となったが、最多価格帯は受容価格帯の範囲内となった。

6 世帯年収別の価格感度測定

1. 国産和牛

■ 図表VII-14 国産和牛の受容価格帯：世帯年収別



国産和牛について受容価格帯の世帯年収による違いを分析する。世帯年収ごとの安さの限界点（PMC）と高さの限界点（PME）との価格幅（受容価格帯）を示したものが「図表VII-14」である。

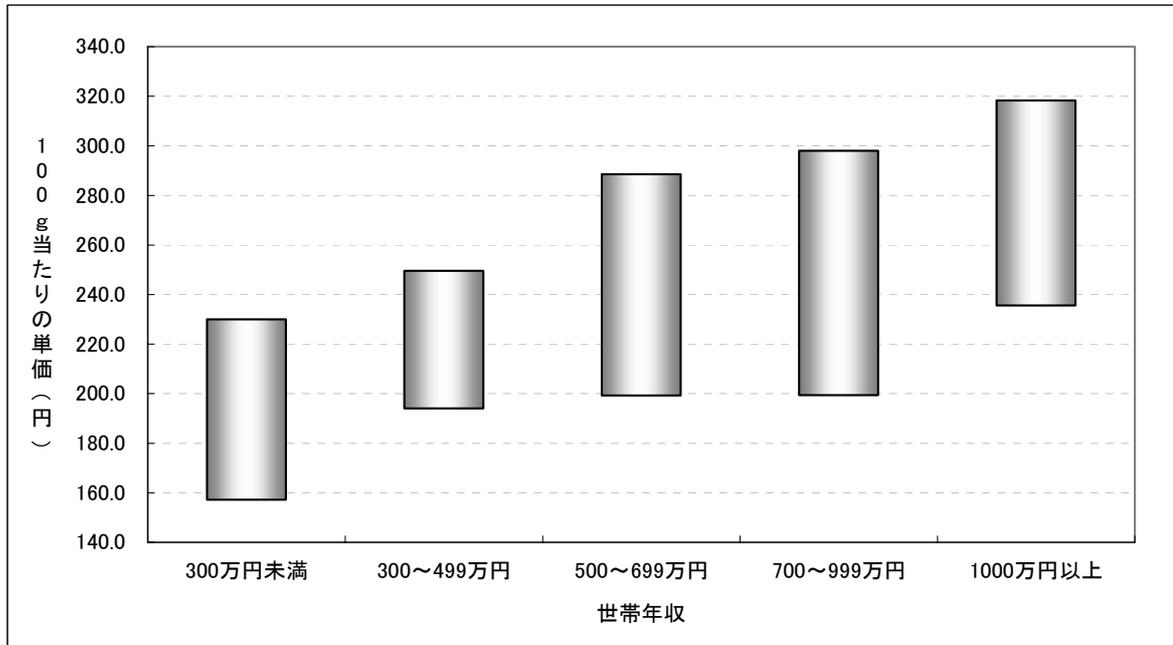
この図を見ると、世帯年収 300 万円未満が 300 円/100g を上限とし、世帯年収 300~499 万円、500~699 万円、700~999 万円が 300 円/100g をほぼ中心にし、世帯年収 1,000 万円以上は下限金額が 300 円/100g を超えることがわかる。

また、世帯年収 300~499 万円、500~699 万円、700~999 万円では上限金額が 100g 当たり 310.2 円、348.5 円、350.0 円と上がってはいくものの大差ないが、世帯年収 1,000 万円以上では上限金額が 100g 当たり 428.0 円と特に高く、高価な国産和牛を日常的に食べていることを示している。

6 世帯年収別の価格感度測定

2. 和牛以外の国産牛

■ 図表Ⅶ-15 和牛以外の国産牛の受容価格帯：世帯年収別



和牛以外の国産牛について受容価格帯の世帯年収による違いを分析する。世帯年収ごとの安さの限界点（PMC）と高さの限界点（PME）との価格幅（受容価格帯）を示したものが「図表Ⅶ-15」である。

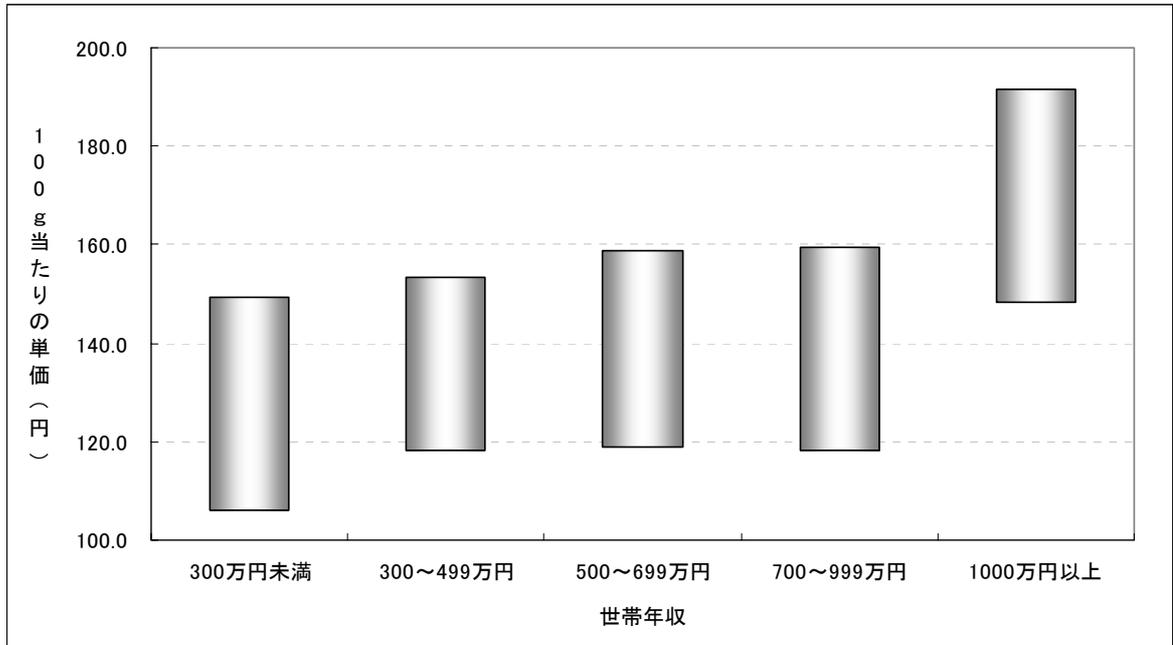
この図を見ると、世帯年収 300 万円未満が 230 円/100g を上限とし、世帯年収 300~499 万円、500~699 万円、700~999 万円が 230 円/100g を受容価格帯の中に含め、世帯年収 1,000 万円以上は下限金額が 230 円/100g を超えることがわかる。

また、世帯年収 500~699 万円、700~999 万円、1,000 万円以上では受容価格帯の幅が広く、品質による価格の変化をある程度容認していると考えられる。

6 世帯年収別の価格感度測定

3. 国産豚ばら肉

■ 図表Ⅶ-16 国産豚ばら肉の受容価格帯：世帯年収別



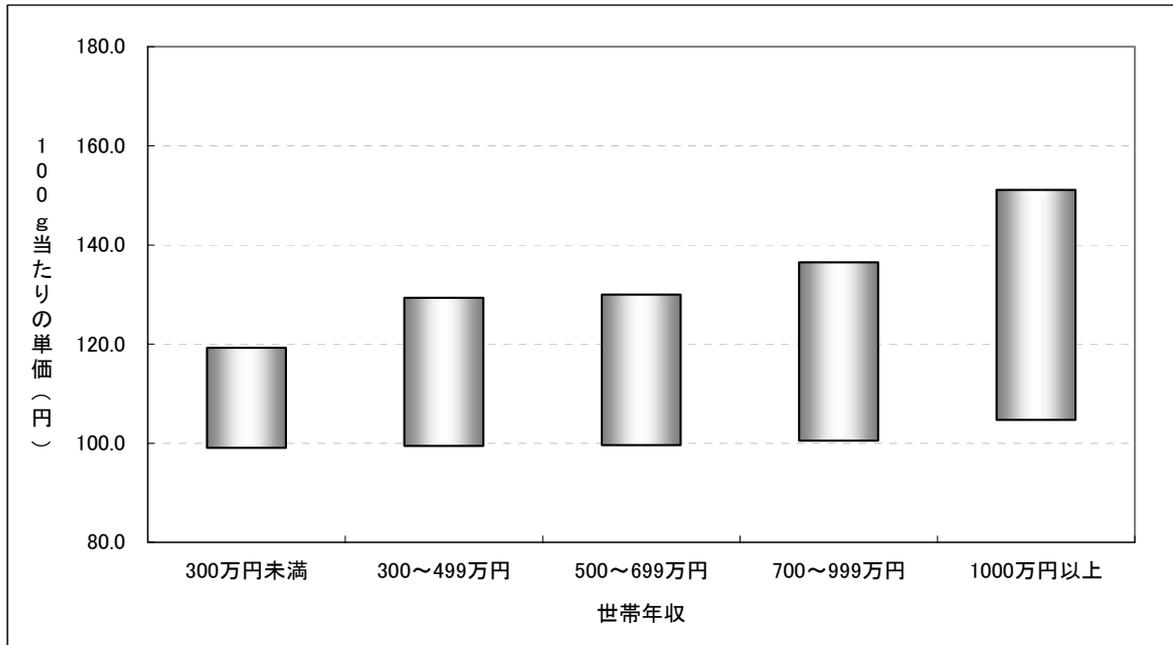
国産豚ばら肉について受容価格帯の世帯年収による違いを分析する。世帯年収ごとの安さの限界点（PMC）と高さの限界点（PME）との価格幅（受容価格帯）を示したものが「図表Ⅶ-16」である。

この図を見ると、世帯年収 300 万円未満、300~499 万円、500~699 万円、700~999 万円では上限金額が 100g 当たり 149.3 円、153.3 円、158.7 円、159.4 円と上がってはいくもののあまり差がないことがわかる。これに対し、世帯年収 1,000 万円以上では下限金額が 100g 当たり 148.2 円で、世帯年収 300 万円未満の上限金額と同水準になっており、高価な豚ばら肉を日常的に食べていることを示している。

6 世帯年収別の価格感度測定

4. 鶏もも肉

■ 図表Ⅶ-17 鶏もも肉の受容価格帯：世帯年収別



鶏もも肉について受容価格帯の世帯年収による違いを分析する。世帯年収ごとの安さの限界点（PMC）と高さの限界点（PME）との価格幅（受容価格帯）を示したものが「図表Ⅶ-17」である。

この図を見ると、世帯年収 300 万円未満の受容価格帯は世帯年収 300～499 万円、500～699 万円の受容価格帯の中に含まれ、世帯年収 700～999 万円、1,000 万円以上の受容価格帯とも重なる部分があることがわかる。世帯年収を問わず受容される価格帯があるといえる。

また、世帯年収が上がるにつれて上限金額が高くなり、高価な鶏もも肉を選ぶことが可能になることを示している。